

病を乗り越え、火祭りロードレースに挑戦! 東京都港区の会社員大久保淳一さん(49)〔写真〕は、奉丸がんと重度の疾患「肺線維症」を克服し、25日に富士吉田市内で開かれる第33回山日YBS富士吉田火祭りロードレース(富士吉田市陸上競技協会、山梨日日新聞社、山梨放送主催)に出場する。一時は横断歩道も渡りきれないほど体力が衰えたが、懸命のリハビリで回復。「自分が走ることで、病気と闘っている人たちを励ました」と意気込んでいる。

大久保さんは外資系証券会社に勤務、趣味でマラソンに打ち込んだ



都内の会社員、あす火祭りロード がん乗り越え完走めざす

リンパ節切以上、100キロマラソンも4回完走した体力は、「20歳歩くのに20歳かかるほど衰えた」(大久保さん)。がん治療が終わりかけた時、新したいと、医師には無理と言わ得られる」と語る大久保さん。闘病中、乳がん患者がランニングで汗を流しているという記事に励まされたといい、「今度は自分が励ます番。完走し、がんになつてもこんなに元気になれる」と伝えた

ていた。2007年3月、検査で癌で一命を取り留めたが、肺機能に手術、全身への転移が判明した。08年11月に肺線維症の治療を終了したが、以前フルマラソンを30回3ヶ月間の抗がん剤治療と腹部の

マラソンを完走。今年6月には北海道での100キロマラソンも走破した。

に続けた。徐々に体力が戻り、昨年4月に茨城県内の大会でフルマラソンを完走。今年6月には北海道での100キロマラソンも走破した。

「病気と闘う人励ましたい」

25日の火祭りロードレースにはハーフマラソン(約21キロ)に参加する。「上り下りが激しい難コースだが、自然豊かな富士山の麓を走れたら生きている実感をきっと得られる」と語る大久保さん。闘病中、乳がん患者がランニングで汗を流しているという記事に励まされたといい、「今度は自分が励ます番。完走し、がんになつてもこんなに元気になれる」と伝えた

い」と話している。

〈三井将也〉